

[課程一 2]

審査の結果の要旨

氏名 西垣 昌和

本研究は、急増する 2 型糖尿病に対する効果的な予防方策となりうる 2 型糖尿病患者の血縁者（特に子）への予防プログラムを考案するため、I. 2 型糖尿病患者の血縁者の発症予防に関する糖尿病医療専門職の意識、II. 2 型糖尿病患者とその子を対象とした予防的介入方法検討のための基礎調査、III. 2 型糖尿病患者の子に対する 2 型糖尿病発症予防プログラム作成と評価、の 3 研究を行ったものであり、下記の結果を得ている。

I. 2 型糖尿病患者の血縁者の発症予防に関する糖尿病医療専門職の意識

臨床現場で糖尿病医療専門職として糖尿病患者のケアにあたっている医療者 19 名の、血縁者の 2 型糖尿病発症リスクに関する認識、(医療者からみた)患者の遺伝に関する知識とリスクに関する認識を整理した。また、専門職の考える血縁者の 2 型糖尿病発症リスクに対する具体的方策の案を収集した。その結果、患者や子の糖尿病発症リスクおよび予防活動に関する認識は低いという印象を多くの医療者がもっていた。そこから、血縁者の 2 型糖尿病予防に関する対象者の意見は、患者とその家族が正しくリスク認知をし、好ましいライフスタイルに行動を変容させて環境要因をコントロールできるようになる、ということを目指し、糖尿病、特に遺伝要因ならびに環境要因の相互作用に関する教育・知識の普及を図ることが重要であるとの考えに要約できた。

II. 2 型糖尿病患者とその子を対象とした予防的介入方法検討のための基礎調査

75 歳以下の外来通院中 2 型糖尿病患者 221 名、およびその子で 20 歳以上 50 歳未満かつ糖尿病でない者 164 名を対象に、リスク認識、予防行動(患者：子への注意喚起行動、子：生活習慣の改善)に関する認識と実行の実態、糖尿病関連知識(一般的知識、リスク要因等)、情報源の希望と実際について尋ねる自記式質問紙調査を行った。その結果、リスク認識、予防行動の実行状態、糖尿病関連知識は、わが国の糖尿病医療専門職の認識や海外における先行研究よりも高く、糖尿病の一般的な情報は浸透していると考えられた。また、子は予防に関する情報源として専門家による意見を重視していた。これらの結果と子の糖尿病発症予防のための予防的活動として、より具体的な生活習慣に関する非対面型の個別教育を行うことが有効であると考えられた。

III. 2 型糖尿病患者の子に対する 2 型糖尿病発症予防プログラム作成と評価

2 型糖尿病患者の子(25 歳以上 50 歳未満、糖尿病でない者：糖尿病患者の子群) 10 名と糖尿病家族歴のない成人(25 歳以上 50 歳未満、糖尿病でない者：非糖尿病患者の子群) 6 名

の 2 群を対象として、健康運動指導士・管理栄養士らが行う郵送による非対面型の運動・食事個別指導を 2 ヶ月ごとに計 3 回行い、その効果を比較検証した。その結果、糖尿病患者の子は非糖尿病患者の子よりも糖尿病発症を助長するような食生活をしている傾向があった。介入により、患者の子群は非患者の子群よりも効果がみられ、糖尿病家族歴のある成人を介入の対象に設定することにより高い効果が得られることが期待された。しかしながら、研究参加への応諾率は約 15%と低く、介入を対象者に提供するきっかけをいかにつくるかが検討課題としてあげられた。

以上、本論文は 2 型糖尿病の血縁者を対象とした予防プログラムを考案し、その効果および実行のための課題を明らかにした。本研究により提示された予防プログラムは、2 型糖尿病の新たな予防方策として有用であり、学位の授与に値するものと考えられる。